



個室ユニット型施設 推進協ニュース

2023年10月号
(令和5年)
NO. 194

【発行】一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3-20-8
ペネックスS-3 4階
TEL: 045-577-4212 / FAX: 045-577-4213
MAIL: info@suishinkyo.net

- 武見厚労相 会見 <2面>
- 車座対話第4弾 (奈良) <2面>
- 施設紹介 (サニーヒル横浜・神奈川県) <3面>
- Pマーク更新認定 クリア <4面>
- 推進協 第2回理事会 開催 <2面>
- 尾島の視点 <2面>
- 介護ニュース・ダイジェスト <4面>
- 入会施設のご紹介 <4面>
- 神奈川県黒岩知事 朝食会開催 <2面>
- 施設紹介 (飛鳥晴山苑・東京都) <3面>
- ズバリ回答! 人事・労務のお悩み <4面>
- 事務局から <4面>

推進協の藤村理事が意見陳述

「賃上げに乗り遅れない報酬改定を」

介護給付費分科会ヒアリング

2024年度の介護報酬改定について話し合う厚生労働省の介護給付費分科会は9月27日、改定に向けた検討の一環として関係団体ヒアリングを行った。全国個室ユニット型施設推進協議会(赤枝眞紀子会長)は物価上昇に対応した報酬改定ルール策定などを求める意見を陳述した。



藤村二朗
理事・介護保険委員長

関係団体ヒアリングは10月2日の第2回と併せてオンライン形式で行われ、初回には推進協も含めて14団体が参加した。全国ホームヘルパー協議会や日本認知症グループホーム協会など多くの団体が共通して物価高騰や人材不足の深刻さを訴え、基本報酬の引き上げや評価(加算)の充実を求めた。

推進協からは介護保険委員長を務める藤村二朗理事が出席し、約5分間にわたって意見陳述した。訴えのポイントは以下の三つ。

- ①ユニットケア研修の充実とユニットケアの普及促進
- ②賃金目標の設定とそれに向けた年次計画の策定、物価スライドなど新たな報酬改定ルールの策定
- ③新たな複合型サービスの推進策

①の観点では、全てのユニットリーダーにユニットリーダー研修の受講を義務づけるなど、9月初めに「今後のユニットケアのあり方を考える検討会」(座長・中村秀一元厚労省老健局長)が出した緊急提言を下敷きにした。

毎年4・5%アップが必要

推進協が特に強調したのが②の

望に合わせ、改定がない年でも最低賃金や人勤、消費者物価指数等に連動させるなど、新たな報酬改定ルールの策定を24年度改定に向けて議論するように求めた。

「複合型」に短期入所追加を

24年度改定で導入が見込まれる訪問系と通所系を組み合わせた新たな複合型サービスに関する観点③では、短期入所(ショートステイ)も加え、特養の空きベッド活用を提案した。また現行制度上、訪問系と通所系を併用する場合の課題に事業者間の情報共有の難しさが挙げられていることについて、その解消策として同一事業者による複合型サービスの運営が前提となれば、半数弱の単品事業者が事業継続困難になると指摘。

介護給付費分科会

加算の整理や多床室問題を議論

24年度の介護報酬改定を話し合う厚労省の介護給付費分科会は9月8日の会合で「介護人材の確保と介護現場の生産性の向上」を議題とした。水光熱費をはじめ物価が高騰する中で介護分野の賃上げ率が1・4%にとどまり、全産業平均の3・67%(連合まとめ)に全く及ばない状況が報告された。

一方、処遇改善に向けては昨年度導入された「介護職員等ベースアップ等支援加算」の算定率(取得率が今年4月時点で92・1%と昨年10月から大きく上昇した。ただし同加算の前提となる「介護職員処遇改善加算」を取得していない事業所も母数に含めると算定率は86・4%となる。介護職員等ベースアップ等支援加算の届け出をしていない理由として、事務作業などが煩雑だとする回答が多い半面、約2割の事業所が「利用者負担の発生」を挙げた調査結果も示された。全国老人クラブ連合会

居宅支援事業所を含む介護事業者から、別の介護事業者への「業務委託方式」による事業実施方式の導入を視点として盛り込んだ。

意見陳述後の質疑では、同分科会の濱田和則委員(日本介護支援専門員協会副会長)から推進協の複合型サービス導入に向けた提案に関して質問が出された。藤村理事は「利用者の囲い込みにつながる」との批判があることも承知しているが、業務委託方式であれば各地域の資源が連携しつつ、在宅の限界点を上げていける。その機能の中に施設も加わっていければ、地域にとつてのメリットとして連携のしやすさが出てくるし、安定したサービスを提供していくことにつながる」と答えた。

事務局長の正立斎委員は「賃金引き上げを介護報酬以外の枠組みで措置できないか」と問題提起した。

また同15日の会合は介護保険制度の「持続可能性」がテーマの一つとなり、各種加算の簡素化と老健、介護医療院の「多床室」の取り扱いが話された。処遇改善に関わる3加算の一本化と、平均算定率が80%を超え、定着した加算の基本報酬への組み込みではほぼ意見が一致。一方、算定実績が低い加算については原因分析を行い、拙速な廃止には慎重な声が目立った。多床室の室料負担問題では賛否が分かれたが、老健や介護医療院を特養と同じ生活施設と見なすべきではないとの意見が優勢。日本医師会常任理事の江澤和彦委員はプライバシーのない狭い空間への室料設定は国民感情にそぐわないと指摘。「論ずるものが全くなく、何度も(議題に)出てくることに違和感がある」と述べた。

介護大学から

【第1期分校】

10月までに2分校において開催しました。今月以降、次の2分校がスクーリング開催準備中です。

「特別養護老人ホーム岐南仙寿うれし野分校」(岐阜県) 7月開講・12月スクーリング決定。「特別養護老人ホームしょうじゅの里三保サテライト分校」(神奈川県) 開催2回目。10月開講、来年3月スクーリング決定。

【第2期分校】

8分校が開催に向けて準備を進めています。「特別養護老人ホーム明尺苑分校」(千葉県) 11月開講、来年5月スクーリング決定。「特別養護老人ホームしょうなあさひが丘分校」(愛知県) 9月開講、来年2月スクーリング決定。

「特別養護老人ホーム天空の杜分校」(福岡県) 来年2月開講、スクーリング日程調整中。

社会福祉法人久幸会の3分校「特別養護老人ホーム飯島分校」(秋田県)、「特別養護老人ホームはーとふる分校」(東京都)、「介護医療院七里分校」(埼玉県) 10月開講、スクーリング日程調整中。「特別養護老人ホームしょうじゅの里鶴見分校」(神奈川県)及び「特別養護老人ホームしょうじゅの里小野分校」(神奈川県)の2分校は合同開催に向けて調整中。

【第3期分校】

神奈川県より12月に認可がおりることを前提に、6分校と個別相談会を実施しました。

【第4期分校】

2024年2月～3月認可予定。

【第5期分校】

多くの皆様にご参加頂き、10月5日に募集説明会を開催しました。

【11月の研修予定】

▽【新規】ユニットケア基礎研修
11月6日(月)、11月22日(水)

初入閣

武見厚労相が会見

報酬改定への考え方を示す



武見敬三厚労大臣

9月13日に発足した第2次岸田再改造内閣の厚生労働相として初入閣した自民党の武見敬三参院議員（東京選挙区）は14日、厚労省内で記者会見に臨み、24年度の介護報酬改定について物価高騰や賃金上昇局面、人材不足などの状況を見据え、必要な対応を行っていくとの基本的な考え方を示した。武見氏はニュースキャスターなどを経て1995年に初当選（5期目）。厚労副大臣や参院自民議

員副会長を歴任し、2020年には新型コロナウイルスを受け党内に感染症対策ガバナンス小委員会を立ち上げるなど機動力を発揮した。日本医師会会長を務めた武見太郎氏の三男であり、医療関係者からは厚労相就任を歓迎する声が上がったが、武見氏は会見冒頭で「私は決して医療関係団体の代弁者ではありません」と断言。国民の立場に立つて医療報酬、介護報酬の改定を含めた諸課題に取り組んでいく姿勢を明らかにした。介護報酬改定に関して武見氏は「物価高騰や賃金の上昇、経営の状況、人材確保の必要性、患者・利用者負担・保険料負担への影響を踏まえて、患者・利用者が必要なサービスを受けられるよう、必

賃金上昇局面での人材流出に懸念

10月下旬に厚労大臣に要望提出へ

推進協 第2回理事会を開催

推進協は9月12日、今年度第2回の理事会をオンライン形式で開催し、新支部長選任に関する議案を可決した。併せて開かれた理事懇談会では、同27日に厚生労働省の介護給付費分科会が実施する関係団体ヒアリング（一面参照）で陳述する「意見」案の内容が示され、おおむね了承された。

冒頭あいさつで赤枝眞紀子会長は、来年度の介護報酬改定に向けた議論がいよいよ本格化するとして、8月7日に全国老人福祉施設協議会（全国老協）が介護給付費分科会に提出した要望書の中で、インフレ経済下で3年に1度の報酬改定では異業種との賃金格差が一層広がり、介護人材の流出に歯止めがかからないと主張した

ことに「同感だ」と明言。危機意識を共有する立場を改めて示した。理事会に引き続いて理事懇談会が開かれ、推進協が事務局として協力する「今後のユニットケアのあり方を考える検討会」（座長・中村秀一元厚労省老健局長）がまとめた緊急提言書が紹介された。次いで介護給付費分科会のヒアリングで述べる「意見」の文案が示され、また10月上旬に見込まれる「個室ユニットケア推進議員連盟」総会の開催と、それに向けた要望書の作成など当面の行動計画が案内された。議連への要望書には「あり方検討会」の緊急提言やヒアリングで訴える観点に加え、特養の「特例入所」に関する政府

要な対応を行っていくべきだ」と述べた。一方で子育て支援を重視した全世代型社会保障の構築に向け、「負担能力」に応じた支え合いにも言及した。改定論議の主眼の一つ「給付と負担」の見直しはどう進むのかも注目される。

自治会活動は高齢化対策に有効

神奈川県黒岩知事が説明



黒岩祐治知事

8月30日、黒岩祐治神奈川県知事は、4月の知事選挙後、初となる朝食会を開催した。

の対応が不十分なことや介護福祉士実務者研修の効率的な受講が盛り込まれる予定だ。10月下旬をめどに議連幹部と共に厚労相を訪ね、要望を伝える取り組みも提案された。

介護給付費分科会のヒアリングに対する意見では、岸田首相が8月31日の「新しい資本主義実現会議」で2030年代半ばまでに最低賃金1500円を目指すことと明言したことに沿い、賃金や物価に連動した報酬改定ルールの策定などを求める。当日の陳述を担当する藤村二朗理事（介護保険委員長）は「介護保険制度が始まって以来、これほどの賃金上昇・物価上昇の局面はなかった。各団体で異なる主義・主張がある中で、このテーマであれば同調を得られるのではないかと述べ、他業種との賃金格差は正に向け、財源論にとらわれず、思い切った問題提起を行う考えを示した。

併せて認知症対策への決意を強調。今年6月に成立した認知症基本法の施行に先立ち、認知症の人や家族、関係者の声を政策に反映させるための会議を9月中旬に立ち上げ、総合的な認知症施策の推進に向けて議論を深めたいとした。

この中で黒岩知事は、最近、米国を訪問した感想として、アメリカ経済は「絶好調」だったと述べるとともに、コロナでこうした社会も開催できなかったが、今後は国内問題では、神奈川県の高齢化が今後、急速に進むことを念頭に、自身がこれまで取り組んできた未病改善の取組と絡めて、高齢化率が50%を越えているものの、要介護認定率が高くない若葉台団地を例に取り上げ、「自治会

が行う高齢化に向けた取り組み、住民どおしの繋がりが重要」と強調し、現在、若葉台団地には世界中から視察に訪れていることも報告した。元気高齢者により地域を支えるこうした取り組みにより神奈川県が先進地となり、我が国の高齢化を乗り切る必要があるとした。

車座対話 in 奈良



会場の様子

松田社広氏の三名が参加し、活発な意見交換がなされた。中でも村城氏は、社会福祉法人の役割を強調するとともに、在宅サービスの展開と共に、地域貢献していく重要性を訴えた。また、中山氏は、デイサービスの有償型サービスについて触れ、地域の中で民間事業者だからこそ担えることもあるとした。松田氏は身体拘束に関し、新たなつなぎ服の活用時の課題などを指摘した。

推進協は車座対話を引き続き開催するとしており、10月は静岡で開催が決定している。外国人介護人材問題などを重点的に意見交換をする予定。

特養は地域貢献を強化すべし 社会福祉法人としての役割

9月28日、推進協は通算第4回目となる車座対話in奈良を開催した。

開会に際し、主催者を代表して田伏清推進協副会長（社会福祉法人バルツァ事業会理事長）があいさつした後、来賓の山下真奈良県知事はあいさつの中で、奈良県も高齢化に備え、次期介護保険事業支援計画を現在、策定中である旨を述べ、奈良県としても高齢化対策に注力していることを強調した。また、地元を代表してあいさつに立った森山朋子理事（社会福祉法人楽慈会理事長）は、パネリストや参加者に謝意を述べた。

厚労省の峰村浩司高齢者支援課長が基調講演を行い、介護分野の最近の動向を説明すると共に、車座対話にも参加し、施設関係者と意見交換した。この他、車座対話には、社会福祉法人協同福祉会相談役村城正氏、株式会社ルールステージ代表取締役社長中山久雄氏、社会福祉法人奈良苑施設長

尾島の視点

ケアの個別化・標準化 今年1月、肋骨骨折を機に某整形外科に入院する事になりました。右膝痛もあり、検査をした結果、変形性膝関節症とのこと。肋骨はバストバンド装着・物理療法（電気治療など）で、右膝は隔週の注射及び運動療法（リハビリテーション）で対応との治療方針が医師より示され説明を受けました。運動療法に関しては事前予約が必要のため、スケジュールを片手に調整可能な日を伝えましたが既に満杯の日が多く、予約を取るのも至難の業、根気を要します。 某整形外科のリハビリ室に理学療法士、作業療法士、鍼灸師、リハビリ補助の職員が常時十数名在籍しており、常に患者に目を配り、治療やケアにあたっていました。

私自身、通院を始めてから10カ月が経過し、その間に複数の理学療法士から運動療法を受けました。実際に患者の1人として体験する中であることに気づき考えるようになりました。 右脚を挙上する際、手掌で下から支え挙上する、足関節を上から掴み挙上する、足の第一指（親指）を掴んで挙上するなど、担当する理学療法士により挙上の仕方が異なるのです。なぜ、このような状況になるのでしょうか。患者（利用者）の安全・安楽、尊厳の観点から介護福祉士である自分自身への問いかけでもあり重なることだと痛感しました。

「ケアの個別化・標準化」に思いを寄せながら、リハビリテーションに励む今日この頃です。

11月の注目研修

- ▽認知症介護実践者研修 座学研修（オンライン）
- 11月7日（火）・8日（水）
- 14日（火）・15日（水）
- 実習報告会
- 12月15日（金）

各種情報募集!

皆様からの様々な情報を募集しています。

例：県や市からの情報・その他

ご連絡はこちらまで
info@suishinkyo.net

東京都 社会福祉法人 晴山会 特別養護老人ホーム飛鳥晴山苑

～ 地域に信頼される施設作り ～

〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-51-1
TEL 03-3940-9171 FAX 03-3940-9172
URL : <https://seizan-kai.or.jp/asuka-seizanen/>
【特養】 156名(16ユニット) 【ショートステイ】 16名(2ユニット)
【デイサービス】 一般型 45名 認知症対応型 12名 介護予防型 25名/25名
【居宅介護支援事業所】 【訪問看護ステーション】 【地域包括支援センター】

おばあちゃん原宿でお馴染みの「菓鴨地蔵通り商店街」や渋沢栄一と楼で有名な「飛鳥山公園」、100種のバラと西洋館の「旧街」

【落ち着いた雰囲気のある施設】



設え



談話コーナー

施設へのアクセスは山手線、南北線、三田線、都電荒川線の4路線5駅から徒歩圏にあり便利な立地となっています。

飛鳥晴山苑は北区の南端「西ヶ原」に2008年に開設したユニット型特養です。特徴は、規模が大きい事(特養156床、ショート16床、計172)と、デイサービスを中心とした障がい者施設との複合施設であることです。また東京外国語大学の跡地である、広い公園内に位置し地域の防災拠点の役割とともに、弊苑の利用者様の散策場所としても日々利用させていただいています。



施設外観

【施設の紹介】

「おむつゼロ」を目標とする「自立支援の取り組み」を始めて10年目を迎えます。ご自身がトイレで排泄するために、一日1500CCの水分摂取と歩行訓練を行っています。またノリフティング介護を以前から実践していましたが先日勉強グループから3名が「全国ノリフティング推進協会」の指導者研修を修了し、「持ち上げない介護」の推進を図りました。右記のイラストは漫画が得意な職員が描いた啓発ポスターです。

【ICT機器の導入効果】(中山ICT導入チームリーダー)

iPhone、iPad、iPencil、眠りスキャン、眠りスキャンeye、シル

「地域に信頼される施設作り」を理念の1つに掲げております。地域の皆様から「飛鳥晴山苑がここにあって本当によかった。」と想っていただけのような、安心・安全なサービスをお届けすることを目指しています。

【自立支援・ノリフティングの取り組み】(瀬川介護長)



ノリフティングポスター

古河庭園、景勝地「六義園」、染井よしの発祥地「染井霊園」などの名所や寺院も多く見られます。

【施設の理念】「地域に信頼される施設作り」を理念の1つに掲げております。地域の皆様から「飛鳥晴山苑がここにあって本当によかった。」と想っていただけのような、安心・安全なサービスをお届けすることを目指しています。

ICT機器を導入し2年が経過しました。まだ完全に使いこなすという域までは達していませんが徐々に使用率も上がってきました。全ては「より良いケアをしたい」という職員全員が目指していることです。そのためにもICT機器をうまく活用しながら利用者様の安全を守ることは勿論、どれだけ職員の負担を減らすことができるかが鍵だと思えます。

【渡部徹也施設長から】

利用者様に満足いくサービスを提供するためには、職員一人ひとりの生活の安定が不可欠です。不安なく仕事して頂けるようしっかりとした待遇を担保する事と働きやすい快適な職場環境を提供する事が大事だと思っています。そのために入所を望んでいる方々の一日でも早い入所を心掛けてご家族のご希望に添えていくこと、そして常時満床で事業運営を継続していくことこそが私どもの使命と肝に銘じ、地域と共に歩んでいきたいです。

VESI職員満足度の向上とCSI利用者満足度の向上を目指す



左から中山リーダー、渡部施設長、瀬川介護長

ICT機器をうまく活用しながら利用者様の安全を守ることは勿論、どれだけ職員の負担を減らすことができるかが鍵だと思えます。

ICT機器を導入し2年が経過しました。まだ完全に使いこなすという域までは達していませんが徐々に使用率も上がってきました。全ては「より良いケアをしたい」という職員全員が目指していることです。そのためにもICT機器をうまく活用しながら利用者様の安全を守ることは勿論、どれだけ職員の負担を減らすことができるかが鍵だと思えます。



ICT機器パルロ

神奈川県 社会福祉法人 隆徳会 特別養護老人ホームサニーヒル横浜

～ 『ここを利用して良かった』と心から感じていただける施設を目指す ～

〒241-0802 横浜市旭区上川井町426
TEL 045-920-0320 FAX 045-920-0321 URL:sunnyhill.or.jp
【特養】 140名(14ユニット) 【ショートステイ】 10名(1ユニット)

「ここを利用して良かった」と心から感じていただける施設を目指します」を理念に掲げ、ご利用者だけでなくご家族や、地域の方々や関係機関からも必要としていただけるような取り組みを心がけている。

【施設理念】

横浜市旭区白根で40年以上続く名店「若草」。自家製和菓子中心のお店だが、お赤飯は、あさひの逸品に認定されている。逸品に認定されているお赤飯は若草のものだけとなっている。

【地元の名物】横浜市旭区白根で40年以上続く名店「若草」。自家製和菓子中心のお店だが、お赤飯は、あさひの逸品に認定されている。逸品に認定されているお赤飯は若草のものだけとなっている。

【職員研修】継続的に外部から講師をお呼びして研修を行ったりしているが、コロナ禍からはZoomなどオンラインの研修を積極的に活用し、全職員が定期的に研修を受けている。質の向上を目指し、職員へ学びの場を提供できる体制作りを心がけている。

【4年ぶりの夏祭り】コロナ禍となり、昨年までの3年間は施設内でご利用者と職員でゲームやおみこしなどを楽しむお祭りを行っていた。今年は、ご家族、高校生や地域のボランティアの方々にご参加いただき、ゲームやダンスや和

【コロナ禍でも外出】太鼓の演奏などを皆で楽しむことができた。



施設外観

【施設の紹介】

【職員研修】継続的に外部から講師をお呼びして研修を行ったりしているが、コロナ禍からはZoomなどオンラインの研修を積極的に活用し、全職員が定期的に研修を受けている。質の向上を目指し、職員へ学びの場を提供できる体制作りを心がけている。

【4年ぶりの夏祭り】コロナ禍となり、昨年までの3年間は施設内でご利用者と職員でゲームやおみこしなどを楽しむお祭りを行っていた。今年は、ご家族、高校生や地域のボランティアの方々にご参加いただき、ゲームやダンスや和



職員研修

【職員研修】継続的に外部から講師をお呼びして研修を行ったりしているが、コロナ禍からはZoomなどオンラインの研修を積極的に活用し、全職員が定期的に研修を受けている。質の向上を目指し、職員へ学びの場を提供できる体制作りを心がけている。

【4年ぶりの夏祭り】コロナ禍となり、昨年までの3年間は施設内でご利用者と職員でゲームやおみこしなどを楽しむお祭りを行っていた。今年は、ご家族、高校生や地域のボランティアの方々にご参加いただき、ゲームやダンスや和



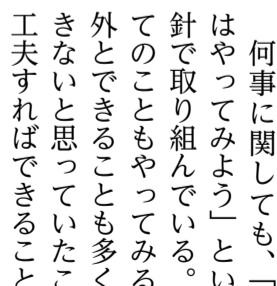
ピアノ

【職員研修】継続的に外部から講師をお呼びして研修を行ったりしているが、コロナ禍からはZoomなどオンラインの研修を積極的に活用し、全職員が定期的に研修を受けている。質の向上を目指し、職員へ学びの場を提供できる体制作りを心がけている。

【4年ぶりの夏祭り】コロナ禍となり、昨年までの3年間は施設内でご利用者と職員でゲームやおみこしなどを楽しむお祭りを行っていた。今年は、ご家族、高校生や地域のボランティアの方々にご参加いただき、ゲームやダンスや和

【清水千津施設長より】まずはやってみる。何事についても、「まずはやってみよう」という方針を取り組んでいる。初めてのこともやってみると意外とできることも多く、できないうちから諦めていたことも工夫すればできることもある、ということをご家族から、その学びをさらなるサービスの質の向上につなげられるよう、日々職員皆で考え実践していきたく

【清水千津施設長より】まずはやってみる。何事についても、「まずはやってみよう」という方針を取り組んでいる。初めてのこともやってみると意外とできることも多く、できないうちから諦めていたことも工夫すればできることもある、ということをご家族から、その学びをさらなるサービスの質の向上につなげられるよう、日々職員皆で考え実践していきたく



清水千津施設長

【清水千津施設長より】まずはやってみる。何事についても、「まずはやってみよう」という方針を取り組んでいる。初めてのこともやってみると意外とできることも多く、できないうちから諦めていたことも工夫すればできることもある、ということをご家族から、その学びをさらなるサービスの質の向上につなげられるよう、日々職員皆で考え実践していきたく

ドライブと公園の散策など、マスクを外さずでも外出を考え実施した。現在は少しずつカウンター席でお寿司を食べるなどの外食も始めている。



三溪園へ日帰り旅行

【コロナ禍でも外出】太鼓の演奏などを皆で楽しむことができた。



サニーヒル祭り

施設紹介コーナー 投稿料 1万円GET 投稿原稿 募集中! 投稿用紙のフォーマットへ必要事項を入れるだけ 詳細は推進協ニュース施設紹介担当書宛 Tel : 045-577-4212 Mail : info@suishinkyo.net

介護「ユース・ダイジェスト

8月26日(土)
9月25日(土)

■厚労省 新しい複合型サービス
のメリットを強調(8月30日)

「訪問」と「通所」を組み合わせた複合型サービス導入について、「通所で明らかになった利用者の課題を訪問でフォローするなど、より質の高いサービスが受けられる」といったメリットを同日の介護給付費分科会で示した。

■介護職の4割以上が夜勤の休憩を取れないと回答(8月30日)

労働組合のU Aゼンセン日本介護クラフトユニオン(NCCU)は今年度の「就業意識実態調査」の結果を公表し、夜勤(夜間・深夜勤務)中の休憩について「取れない」と答えた組合員の割合が43・3%(月給制)ないし、53・0%(時給制)に上った。最も多かった理由は「1人夜勤のため職場から離れない」だった。

■今後のユニットケアのあり方を考える検討会は緊急提言書を厚労省に提出(9月4日)

今後のユニットケアのあり方を考える検討会(委員長中村秀一元老健局長)は、ユニットケア研修の見直し等に関する緊急提言を行うとともに、マスコミ各社へ周知した。

■中村裕之衆院議員の励ます会が都内で開催(9月4日)

自民党の中村裕之議員(個室ユニットケア推進議員連盟事務局長)は、自身初となる都内での励ます会を開催した。講演には、同じく自民党の甘利明元幹事長が登壇し、半導体をめぐる世界情勢と我が国の世界戦略について語った。

■厚労省 施設管理者のテレワークについて通知(9月5日)

特養の施設長など介護施設・事業所の管理者が「常勤」でなければならぬ規定について「管理上支障が生じない範囲において、テレワークを行うことが可能」と

する基本的考え方を示した。

■推進協 介護保険委員会を開催(9月7日)

介護保険委員会(委員長藤村二郎)は、9月27日に開催される介護給付費分科会の団体ヒアリングに提出する資料及び10月4日に開催されるユニット協議総会へ提出する要望書項目案について検討を行った。

■ベースアップ加算の取得率が約86%に上昇(9月8日)

介護職員の処遇改善に関する加算のうち、昨年度導入された「介護職員等ベースアップ等支援加算」を取得(算定)した事業所が今年4月現在、全体の86・4%に上り、昨年10月の80・0%から上昇した。厚労省が同日の介護給付費分科会の資料で報告した。

■7割以上の特養が介護助手を活用(9月8日)

介護現場の生産性向上を議題にした同日の介護給付費分科会で、介護助手導入に関する調査結果が報告された。現在導入(雇用)している特養は69・6%で、過去も含めると約75%が活用。特養で働く介護助手人材の年齢層は60代が約28%、70代以上が約27%だった。

■厚労省 外国人介護人材の人員配置基準への算入について論点を提示(9月8日)

EPA介護福祉士候補者と技能実習生について、人員配置基準への算入を現行の就労6カ月後から就労開始直後に変更する考え方を同日の介護給付費分科会の論点に挙げた。

■推進協 理事会を開催(9月12日)

新たな支部長の選任と9月27日に開催される介護給付費分科会の団体ヒアリングに提出する資料及び10月4日に開催されるユニット協議総会へ提出する要望書について検討を行った。

■東京都医師会 新たな看護介護資格の創設を要望(9月12日)

東京都医師会は定例会見で来年度の東京都予算に対する要望(重点医療政策)を発表。その中で、准看護師、介護福祉士制度を活用した新たな資格「療養看護介護福祉士」(仮称)を創設したいとし、都の支援を要望した。

■岸田首相 認知症対策は「待ったなしの課題」(9月13日)

内閣改造に伴う記者会見で、これ以上先送りできない社会的課題の一つとして認知症を挙げ「認知症の方が尊厳、希望を持って暮らすことができる社会をつくる」とが喫緊の課題と述べた。

■新厚労相に武見敬三参院議員が就任(9月13日)

第2次岸田再改造内閣が発足し、厚労相に自民党の武見敬三参院議員(東京選挙区)が就任した。岸田首相は記者会見で「厚生労働分野に長く関わり、国際人脈も豊富」と登用した理由を述べた。

■約3割の自治体が介護事故情報を活用せず(9月15日)

介護施設で発生した事故について「集計や分析は行っていない」とする市区町村が27・8%あったとの調査結果を厚労省が同日の介護給付費分科会で示した。また事故報告を受けても、27・2%の市区町村が情報を「活用していない」と答え、フィードバックが不十分な実態が明らかになった。

■従来型施設の76%が個室ユニットへの転換意向なし(9月21日)

21年度の介護報酬改定の効果などについて今年7月から行われていた調査の結果(速報値)が介護給付費分科会の「介護報酬改定検証・研究委員会」で報告された。個室ユニット型施設の整備・運営状況に関する調査では、個室ユニットへ転換する意向がないと答えた特養が混合型で81・8%、従来型のみで76・0%だった。理由として入居者や家族の要望がない、建て替えや移転が必要になる、との回答が多く挙げられた。

ズバリ回答！人事・労務のお悩み 極端な雇用条件の変更申し出について

【今月の相談内容】

元々、正規職員(三交代シフト制の制限なし)で入職した介護職員が育児休暇から復帰してきました。ただ、復帰に伴い、「日勤帯の9時~17時の勤務しかできない」「土日祝日に休みが欲しい」という申し出がありました。

当施設では、このような場合、正規職員ではなく、有期の契約職員となりますが、賃金については従来通り支給しております。入職当初と条件が異なっているにもかかわらず、従来通りの賃金というのは、違和感があります。引き下げを行っても良いでしょうか。

【回答】

賃金などの当初の雇用条件を引き下げることは、その不利益の程度を踏まえる必要があります。賃金については特に、個別の合意が必要になってくるかと思えます。その際に、同様の条件で雇用している職員を参考とする方法があります。

ただし、雇用契約の期間に定めを設け、結果として、雇止めする可能性があるような場合は、職員本人と更新する場合の要件について、よくよく話をしておかなければトラブルの原因となるばかりか、過去の曖昧な部分まで交渉の場に入ってくることも少なくありません。

更新しない場合においては、それまでの勤続年数により事実上の解雇となることも考えられます。同一労働同一賃金は、正規と非正規の問題のみならず、今後は、正規と正規、非正規と非正規の雇用条件にも波及していきそうです。

今回の事例については、極端な一方的な条件の変更は、職員の生活も踏まえれば大きな課題となります。慎重に検討されることをお勧めします。



推進協監事・特定
社会保険労務士
栗田淳二

Pマーク更新認定をクリア

推進協では、プライバシーマークの更新認定を受け、この度も、無事にクリアいたしました。

引き続き、個人情報の取扱いを適切に行い、セキュリティ強化に取り組んでまいります。

入会施設のご紹介

【鹿児島】(特養) サンピアよつ葉
(福) いぶすきケアネット
理事長 大重力
施設長 石川美保
鹿児島県指宿市東方10235番地1

【会員施設数】 393施設
(令和5年9月30日現在)

事務局から

今やすっかり日本に定着したイベント「ハロウィン」。魔女、ゴースト、ゾンビ、ガイコツ、といった怖いものに仮装するのが定番ですが、近年は多彩になってきました。日本では仮装パレードやコンテストが行われ個性豊かな仮装を楽しんでいます。



私はこの時期になるとなんとなくかぼちゃを買ってしまいます。先日、おつまみにぴったりなレシピを友人から聞きました。とても簡単で美味しかったのでご紹介します。

▽かぼちゃのバルメザンチーズ焼き
①かぼちゃはスプーンで綿と種をとって、薄切りにして耐熱容器に入れレンジでチン！②かぼちゃの両面にバターを塗る。③パルメザンチーズをふりかける。④トースターで4分程焼く。⑤器に盛り付け、黒コショウをふって完成！

簡単においしいほくほくレシピ。皆さんもどうぞお試しください。(井田)

【新規研修事業】

一般職員向けのオンライン研修

ユニットケア基礎研修

【プログラム】 13時~16時45分

【内容】 ユニットケアの理念と特徴他 (GWあり)

ユニットリーダー研修と同じテキストを使用。同じ講師が担当いたします。

令和6年4月より、介護職員は年2回の虐待防止研修の受講が義務化されます。

厚労省 虐待防止研修対応

虐待防止研修 (Eラーニング)

1本1時間

Eラーニングなのでいつでも視聴可

2023年度

友共事業

共に作り、友に学ぼう、共に

ユニット型施設 事例研究募集

募集期間：2024年3月31日まで

詳細はホームページにて

テーマは自由